

第3学年社会科学学習指導案

日 時 平成26年11月7日(金) 公開授業 I

対 象 3年1組 男14名 女16名 計30名

指導者 亀丸 香代

1 単元名 調べよう 物をつくる仕事 「人々の暮らしと工場のしごと」

2 単元の目標

第3学年及び第4学年目標

(2) 地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。

(1) 自分たちの市で行われている生産活動について、働く人たちの様子や生産のための工夫をとらえるとともに、原料や製品を通じた他地域とのつながりに気付くことができるようにする。

(2) 地域の生産活動の移り変わりや、地域の自然環境と社会環境との関係をとらえ、地域の生産活動と自分たちの暮らしとの結びつきについて考えを深めることができるようにする。

3 単元の評価規準

観 点	B:おおむね満足できる
社会的事象への 関心・意欲・態度	滝沢市で行われている生産活動に関心をもち、意欲的に調べることを通して、滝沢市の生産活動と自分たちの生活のかかわりを考えようとしている。
社会的な思考・判 断・表現	滝沢市で行われている生産活動の様子から学習問題を見付けて追究し、滝沢市での生産活動の特色やそれらの仕事に携わっている人々の工夫について考えたことを適切に表現している。
観察・資料活用の 能力	滝沢市で行われている生産活動の様子を的確に見学・調査したり、具体的資料を活用したりして必要な情報を集め、読み取っている。
社会的事象につ いての知識・理解	滝沢市で行われている生産活動には、原料や製品を通じた他地域や外国とのつながり、働く人の工夫や努力があることを理解している。

4 単元について

(1) 児童について

子どもたちにとって、本単元は社会科の学習の3つ目の単元になる。一番身近な地域や市の学習から始まり、学区にあるスーパーマーケットの学習を経て本単元に至り、これまでよりもっと視野を広げる必要のある学習対象となっている。

子どもたちは、社会科の見学をして分かったことをまとめる学習にとっても意欲的に取り組んでいる。調べたことをもとに、課題について予想して考察することもできるようになってきた。

そこで本単元では、自分の考えと友だちの考えを比較してより深い考察をしたり、友だちの考えの良さに気付いたりする力を伸ばしていきたい。

(2) 教材について

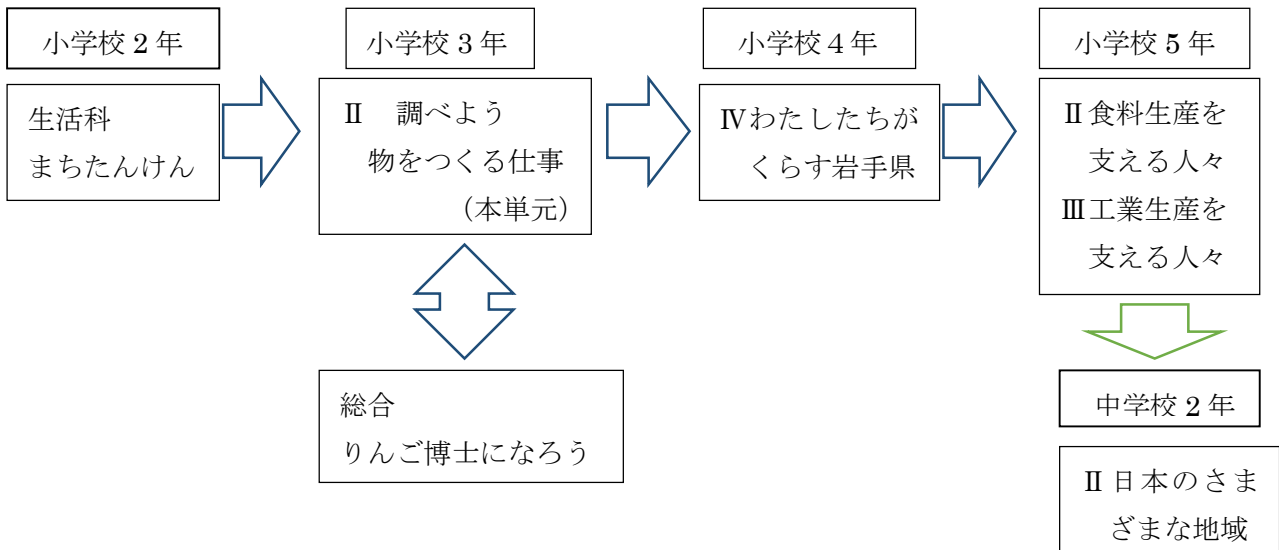
本教材は、工場や農家のような生産に関する仕事の中から1つを選択して学習する教材である。子どもたちは今まで、総合的な学習の時間等でりんご作り農家の仕事について調べた経験がある。子どもたちにとって工場の生産の様子を学習するのは初めてであるが、滝沢市で生産されている製品がどのように作られ、どう流通されているのかを知ることができるので、工場の学習を選択した。

工場生産されている製品が、原料をどこから仕入れどこに出荷しているかを調べることで、国内だけでなく外国とのつながりもとらえることができると考えた。地図や地球儀を活用したり、白地図にまとめたりして理解を深めさせ、社会的なものを見方や考え方の基礎を育てていきたい。

(3) 指導について

指導にあたっては、見学活動・体験活動を重視し、工場で働く人の様子を見学やインタビューを通して具体的にとらえさせ、働く人への共感的な理解を深めることができるようにする。また、子どもたちの問題解決に必要な資料を提示するために、別途取材で記録した映像や音声資料の効果的な活用も図っていききたい。

5 単元の系統と他教科との関連



6 単元の指導計画（13時間扱い）

- | | |
|----------------------------------|-------------|
| (1) オリエンテーション | 1時間 |
| (2) 農林業の機械を作る工場調べてくることを決める | 1時間 |
| (3) 工場見学に行く | 2時間 |
| (4) 見学メモをまとめる | 1時間 |
| (5) 農林業の機械をどうやって作るのか理解する | 1時間 |
| (6) 工場働く人たちがどんなことに気づいているのかとらえる | 2時間 (本時2/2) |
| (7) 材料はどこから来て、作られたものはどこに行くのかとらえる | 2時間 |
| (8) 滝沢市のどんなところに工場があるのか考える | 1時間 |
| (9) 分かったことをパンフレットにまとめる | 2時間 |

7 本時について

(1) 目標

工場で働く人たちが様々な仕事を分担して、協力して働いていることに気付くことができる。

(社会的な思考・判断・表現)

(2) 「自分の考えをもつ^自」「互いの考えを交流する^交」「互いの考えのよさに気づく^気」場面

本時の「自分の考えをもつ」場面では、さんさ踊りに取り組む理由を予想させた後で、工場働いている人の様子(写真)からどんなことに気を付けて働いているかを考えさせる。

「互いの考えを交流する」場面では、ペアで考えを出し合い、その考えをもとに全体で交流し、資料やインタビュー映像をもとに確かめていく。

「互いの考えのよさに気づく」場面では、授業の振り返りの中に、友だちの考えのよさにふれた記述をさせ、発表し合いたい。

(3) 展開

段階	学習活動	場面	○指導上の留意点 ●評価の観点(方法)
導入 5分	1 「やまびこ」がさんさ踊りに参加している写真を見て、話し合う。 2 学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「やまびこ」で働く人たちは、なぜさんさおどりに取り組むのだろう。 </div>		○ さんさ踊りに出場するために、一週間練習することを伝え、なぜさんさ踊りに取り組むのか疑問をもたせる。
展開	3 「さんさおどり」に取り組むわけを予想する。 ・楽しいから ・さんさおどりが好きだから	^自	○ 課題を解決するために、「やまびこ」で働く人たちがどんなことを考えながら働いているか考えていくことを伝え、次の学習活動につなげる。
	4 「やまびこ」で働く人たちが、どんなことに気を付けて働いているかを考える。 完成品を調べる人 製品をテストしている人 製品を運ぶ運転手さん 事務室で働く人 勉強会をしている人	^自	○ 写真の人たちがどんなことに気を付けて働いているかを予想し、ノートに考えをまとめさせる。
	5 どんなことに気を付けて働いているのか考えたことをペアで交流する。	^交	○ まとめたことを隣同士で交流させる。友だちの良い考えは、全体の場で紹介させる。

35分	<p>6 ペアで交流したことを出し合い、どんなことに気を付けて働いているかを、資料をもとにして確かめる。</p> <p>7 「やまびこ」の人たちが、なぜさんさ踊りに取り組むのか、佐々木さんのインタビューを聞いて確かめる。</p>		<p>○ それぞれの仕事について考えを出させ、副読本の資料やインタビュー映像をもとに確かめる。</p> <p>○ よりよい製品を作るためには、お互いが協力して働いていくことが大切であることに気付かせたい。</p> <p>○ いろいろな仕事を分担して働いている社員が、さんさ踊りに取り組むことで、会社のため・地域のために心を一つにしているということを佐々木さんのインタビュー映像で確かめる。</p>
終末 5分	<p>8 本時の学習を振り返り、自分の考えをまとめ、発表し合う。</p> <p>(1) 学習課題について</p> <p>(2) 友だちの考えでよかったと思うことについて</p>	気	<p>○ 2段落構成とし、1段落目に授業で分かったことを自分の言葉でまとめさせる。2段落目には、授業の中で友だちの考えでよかったと思うことを記述させる。</p> <p>● 工場の人たちが心を一つにして、協力して働いていることを理解している。 (発表、ノート)</p>

(4) 板書計画

